

教育 振 興

第 577 号

【メール】 h-kyoiku-sinko.21@ia5.itkeeper.ne.jp

年会費〔購読料〕3,000円
 発行予定日 毎月25日
 発行所
北海道教育振興会
 〒060-0005
 札幌市中央区北5条西6丁目
 北海道通信ビル3F
 電話 222-3347番
 FAX 222-3348番
 発行人 濱田美樹
 題 字 中 野 北 浜

PTAって本当に不要ですか？

北海道PTA連合会

会長 後藤 一樹



教育関係団体の皆様におかれましては、日頃より北海道PTA連合会の活動に對しまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、現在PTAは全国的にも言っても過言ではありませんが、岐路に立たされています。昨今では、ライフスタイルの変容や教育現場の働き方改革の影響もあり、旧来型のPTA活動は負担感を増し、PTA離れが加速しています。また新型コロナウイルス感染症に振り回された3年あまり、学校とのコミュニケーションを絶たれた状態でPTA活動を止めてしまった学校も多数ありました。そして追い打ちをかけるように、最近では日本PTA全国協議会元役員の後任事件や、岡山県PTA連合会の解散など、マスメディアを賑わしている状況もPTAに對するマイナスイメージを助長しています。

この状況に私自身、とても心苦しく切ない思いをしています。しかし、このような時だからこそ一旦基本に立ち返り、PTAという存在を今一度考えてみる必要があります。

PTAは本来、保護者と先生が良好な関係を築き互いに高め合いながら、その良い影響が子どもたちの健やかな成長に繋がることの本質です。PTAは国が定める「社会教育関係団体」の一員であり、地域の大人として、子どもたちを見守り育てるといった大切な役割があります。これらPTAの役割を考えた時に、「不要」という結論に至ってしまうのはなぜなのか疑問に思います。自分の愛する子どもが一日の大半を過ごすのが学校です。学校には我が子の友達もいます。勉強や生活面を支えていただく教職員の皆様もたくさんいます。そんな学校に對し、親として関わらなくて良いのでしょうか？親として心を寄せなくて良いのでしょうか？私は自分の愛する子どもがお世話になっていることを考

えると、学校に関わることが他人事とは決して思えません。PTA活動が負担だというのであれば、その負担は一体どういう負担なのか、また改善するにはどうしたら良いのか、考え方や活動の仕方を変えていくべきであると考えています。「不易と流行」という言葉があります。「不易」は変わらない価値観、「流行」は時代に合わせ変わっていくことです。これはまさにPTAに当てはまる言葉だと思えます。親や先生の子どもたちに對する愛情は不変の想いですし、時代に合わない考え方や、やり方、在り方は変えていかなければなりません。親同士や親と先生が横のつながりをしっかりと持って、コミュニケーションが取れている状況が作れるのであれば、PTA組織としての価値は十分にありと考えます。もし学校で大きな事件や事故があった時に、みんなで支え合うことができます。教職員が困っているときには、手を差し伸べることもできます。今年の1月に発災した能登半島の大地震の際、日本PTA全国協議会ではいち早く全国から「支援金」を募りました。日本赤十字社が行う「義援金」では今困っている子どもたちに直接行き渡ることがなく、広く公平に分配されるため、「支援金」という形で、石川県PTA

連合会へ直接お渡しすることができました。その後、日本PTAの会議のうちに、石川県PTA連合会の会長から全国のPTA会員に對して感謝の言葉がありました。「全国のPTAの皆さんに被災された会員は命を救っていただいた。こんなに早くに手を差し伸べてくれて、心を寄せてくれるのはPTAという組織が全国にあり、そのネットワークの賜物です。」と涙ながらにお話しされました。PTAが不要という地域や学校は何事もなく平和な証拠なのかも知れません。いざという時のためにも全国津々浦々まで張り巡らされたこのネットワークを絶やしてはいけないという気持ちになりました。ただのセーフティネットではありません。子どもを幸せに中心に置いたPTAという組織は「必要不可欠である」と今なら胸を張って言えます。

子どもの成長はあつという間です。時代は「主体的な子どもを育てよう」と声高に訴えています。そのためには大人が主体的でなければ子どもが主体的に育つことは考えにくいのです。PTA活動には、主体的な大人になるために必要な要素がたくさんあります。「PTAは子どもたちの応援団。」子ども親もみんな成長して幸せになりましょう。